

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校  
校長 小田切英史

## 令和2年度 後期学校評価の結果について

大寒を過ぎ、寒さも一段と厳しいこの頃ですが、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、今年度の後期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を教職員による自己評価に加え、保護者の皆様や児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えています。

### 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しています。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

### 【2】全体的な傾向

児童・保護者・職員とも前期と比較すると、回答結果は肯定的評価の割合が多くなり、改善されている傾向にあると言えます。

〈児童において〉

【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、16項目中15項目であり、良好な結果といえます。しかし、1項目において『改善の余地がある』状態です。前期には4項目あったことからと比較すると、改善されている傾向にあるといえます。唯一改善しなければならない③「授業中に発言や質問、または意見が言えた」は、前期に引き続き改善が必要な項目であることから、さらに指導を見直す必要があります。また、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、4項目を除いて【D】評価が見られる結果となっています。今年度前期では、【D】評価のなかった項目が1項目しかなかったことから考えると、若干ではあるが改善傾向にあると判断できます。特に【C】【D】評価の割合が比較的高かった(人数にすると10人以上)のは、①「学校は楽しかった。」③「授業中に発言や質問、または意見が言えた」⑭「食べ物を大切にし、好ききらいなく食べることができた」です。前期では、⑯「地域の人たちから教えてもらった授業は楽しかった」もここに当てはまってしまいましたが、後期では改善が見られています。

〈保護者において〉

20項目中17項目で【A】【B】の合計が80%を超えており、3項目が「改善の余地がある」状態です。前期と比較して【A】【B】の合計が70%を下回る項目はなくなりました。また、16の項目で前期と比較して【A】【B】の合計が上回っており、全体的に改善傾向が見られている状況です。しかし、残念なことに【A】【B】の合計が前期を下回る項目もあるため、こちらについては改善に繋げられる方策を講じる必要があると考えられます。

〈職員において〉

17項目中すべてで【A】【B】評価の合計が100%になっています。前期で【C】【D】評価があったものがすべて【A】【B】評価となり、改善された状態です。職員自身の自己評価になりますが、非常に良好な状態と言えます。しかし、【A】評価だけを取り上げてみると、依然80%を超えられないものが9項目ありますが、前期と比較すれば15項目だったものが9項目になり好転してきている状況であるともいえます。より多くの回答が【A】評価となるよう、今後も努めていくことが必要です。

### 【3】個別の分析

#### (1) よく考え、進んで学ぶ子どもの育成【確かな学力】

学力 = ①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ②思考力・判断力・表現力  
③学習意欲・態度

3者において、ほとんどが【A】【B】評価の数値を前期より上げ、満足できる状況にあると言えます。ただ、児童においては、③「授業中に発言や質問、または意見が言えた」だけが前期より落ち込む結果となっており、保護者においては、⑥「子どもは、毎日家庭学習を落ち着いてする習慣がついた。」の項目だけが『満足できる状態』になっていません。



児童の③の回答については、コロナ禍にある状況の中で、指導形態がこれまで同様にいかなかったことが要因として考えられますが、そのような中でも指導方法・学習形態を工夫して、積極的に児童からの発言が得られるようにしていかなければならないと考えます。とても難しいことですが、今後も続く制約の中で、児童に主体的で対話的な深い学びができるようにしていかなければならないと考えます。せっかく、②「授業（勉強）はわかった」で、児童がほとんど【A】【B】

評価していることから考えると、さらに力を伸ばせていける指導を期待したいです。

保護者の⑥の回答については、これ以外の回答結果から考え合わせると、学校での授業には満足できているようですが、家庭での学習習慣の定着が不十分だと言えます。学校では、家庭学習の定着を図るために、児童に対して意欲を喚起したり家庭学習の内容や方法の指導をしたりしていますが、十分ではないという判断の表れだと思われます。しかし、学校側だけの指導で解決できる課題ではないことから、家庭の協力を求める必要があります。今年度は保護者と顔を合わせる機会がなかったことから、協力を求めることが十分ではありませんでした。学年だより等文書などでお願いができるように工夫して、家庭と学校で連携して取り組んでいく必要があると考えられます。

前期の回答で気になっていた①「学校は楽しかった」については、前期では『改善の余地がある』に入っていました。8.2ポイントも向上して、90%に近い児童が【A】【B】評価をつけています。これは、より多くの児童に学校が心地よい場所になっていることだと考えられます。しかし、【C】【D】評価をしている児童が10名以上もあり、彼らを満足できる状態にしていけるかが方策を考えていき必要があります。



職員の回答に焦点を当てると、【A】【B】両方を加えた肯定的評価は、すべての項目において100%であり、【A】評価の割合も増加し着実に改善している様子が伺えます。しかし、④「発達段階に応じたキャリア教育の推進に努めることができた。」の項目で【A】評価の割合が低いことが気になります。今日的な教育課題にも挙げられる「キャリア教育」の推進には、見識を高くして研修を積みながら児童に還元できる指導を心がける必要があります。また、個を大切に指導する必要性も求められています。職員全員が③「個に応じた指導法の工夫・改善に努めた」に、100%

【A】評価にしていることは評価できると思います。常に一人一人の児童を大切にする意識をもって対応してきた結果だと判断できます。今後も、個を意識した指導を心がけ、児童の学習機会保障

し、学習意欲を喚起しながら「基礎・基本の習得」「主体的で対話的な深い学び」ができるよう、授業力を高められるような研鑽を積んでいくことを期待したいです。教師にとって、「わかる授業」「楽しい授業」を児童に施すことや、「自ら学ぶ意欲を高める学習指導」は職務の根幹をなすべきものです。そのことを忘れずに、日々の職務に精進していきます。

## (2) 思いやりの心もち、助け合う子どもの育成【豊かな心】

### 〈いじめに対する取組について〉

児童は、⑦「友達にやさしくできた。」の回答では約95%の肯定的評価をしています。職員においても、全体で児童一人一人の変化を見逃さないようにし、気になる事象の早期発見に努め、適切な早期対応を意識していることから、⑩「いじめの未然防止、早期発見、早期対応」に対する【A】評価が向上しており、その指導は適切だったと考えられます。“いじめ”に関わっては、学校評価とは別に“いじめについてのアンケート”を実施して把握・解決を図っていますが、そこで挙げられたものについては、各担当が、それぞれに個別に聞き取りを行い、事実を確認し解決に向けて対処しています。日々の生活の中で、ちょっとしたトラブルはつきものですが、それが“いじめ”に発展するか否かは、初動段階での対応で決まります。早期発見・早期解決を目指し、児童に寄り添い働きかけていくことが大切です。日々の生活や道徳の授業の中で、相手のことを尊重し関わっていきけるような指導を続け、児童の様子を常に気にかけて変化を見逃さない観察力を高め、誰もが気持ちよく学校生活を送れるようにしていけるようにしていかなければなりません。

しかし、保護者の⑯「学校は、いじめを防ぐための指導を適切に行っていた」の項目では、【A】【B】評価が前期と比較して11ポイント伸びているが、70%台となっています。【E】(わからない)評価を除けば、その数値は87%になりますが、【E】(わからない)状況にあることは、学校の知らせる努力が足りない点として考えられます。学校では、相互理解・他者尊重・自己肯定感を高める等の“いじめ”を防ぐための指導が日々の生活指導や授業等で行われていますが、それが十分ではないという判断だと考えられます。学校全体で足並みを揃えて“いじめ防止”を図れるような取組をすると同時に、その効果を便りや児童を通して家庭に伝えられ、保護者が安心して学校に通わせられるように努めていく必要があると考えられます。また、そうすることが「信頼される学校」につながると考えられます。

### 〈それ以外について〉

校内では、児童の「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」などの元気で大きな声が聞こえています。保護者からも「あいさつ」については、【A】【B】評価が85%を超える評価になっています。児童の回答同様「満足できる」状況にあると考えられます。職員も率先して範を示して、気持ちのよいあいさつに力を入れている結果だと思われれます。対外的な「あいさつ」は定かではありませんが、この傾向をさらに伸ばしていく必要があると考えられます。

保護者の回答結果から、⑫「子どもは、家の仕事をすすんでしていた」が、後期においても『満足できる状態』に至っていません。しかし、【A】【B】評価の割合は、前期と比べ10ポイント以上伸び、改善の傾向にあります。勤労意欲に関わる児童の回答は、前期同様90%以上の【A】【B】評価を得ていることから、この改善の要因は、家庭での児童へのかかわり方に変化があったことが考えられます。児童をよりよい方向へ進ませるには、児童への共感や言葉かけ等が重要です。家庭での子育てに関わることで、それを伝える機会を作っていけることができると考えます。



また職員の回答結果から、前期では、⑩「自然体験活動を取り入れた学習活動の充実」の評価が低いものとなっていましたが、【A】【B】評価が100%の肯定的評価となっています。これは、外部講師を招いての学習や校外学習で地域の方に教えていただく機会が増えたことが起因していると考えられます。これに該当する児童の評価も好転していることから、教師も児童も活動できることを望んでいたことが推察できます。

ネットに接続できる情報機器(携帯電話等)の所有率は、前期とほぼ変わりません。変化が見られるのは、「使用時のルールの設定」です。その割合は前期と比較して上がっています。あるゲーム



アプリがもとでトラブルが起きてしまったこともあります。そして、そのトラブルが学校生活に影響してしまうことも事実です。家庭で管理すべきものですが、88%の児童が所有している中で、そのようなトラブルに発展しないように、児童のみならず保護者にも注意喚起を促せられるような啓蒙活動をする必要があると考えます。例年、5年生の児童及び保護者を対象に、こうした情報端末使用にまつわる危険性を共に考え未然防止を図るための学習会を行っていましたが実施できなかったため、今年度は急遽、PTA役員会後に「スマホやゲーム機に使い方」と題して学習会を開催しました。大変役立つものでしたが、急な計画だったためか参加者が少なかったのが残念です。今後は、計画的に多くの保護者や児童にも学習できる機会を設けられるようにしたいです。

### (3) じょうぶな体でがんばりぬく子どもの育成【健やかな身体】



「元気に遊べていた」に関わる項目で、児童・保護者ともに「満足できる状態」にあるという回答結果でしたが、前期と比べ、前者はポイントを下げ後者は上げています。家庭においては、新型コロナウイルス感染防止のために、外での活動にも制約がおよび、家の中の多くの時間を過ごす生活を強いられてしまっていたことから、少しずつ外での活動ができるようになってきたことが要因だと考えられますが、学校においては、その要因が見つかりません。【C】

【D】評価は、人数にして7名ですが、個別の聞き取りで改善策を見つけたいと考えます。

「食」に関する項目では、食育の充実」のための給食指導が少しずつ実ってきています。児童・保護者の回答も、着実に向上してきています。学校だけでは解決できない課題ですので、今後も家庭との連携を図り、課題を克服できるようにしていけるようにしたいです。

今年度は体力テストの実施が見送られてしまったため、児童の体力の様子を客観的な数値として捉えることができていません。これまでの傾向として体力の低下が危惧されています。来年度、体力テストの結果を分析することを通して、その向上を図っていく必要があります。

### (4) 家庭や地域社会と連携し、信頼される学校を作る【信頼される学校づくり】

地域の教育力や人材を生かした学習については、2学期以降、多くの場面で協力を頂き実施することができました。この様な体験活動は、児童の学習の充実とともに、学校・家庭・地域の連携を深める大きな要素です。児童は、保護者や地域の方の支援に対し、とても満足していることが回答結果からうかがえます。さらに、職員も、登下校時の見守り・横断補助・付き添いなど、児童の安全確保に大きく協力いただいていることに感謝しています。

保護者からは、今後の学校運営改善に向けた貴重な回答結果をいただいています。⑩「学校には、教育活動に適した施設・設備が整っている。」の項目で【A】【B】評価が前期を下回り90%を切る結果です。コロナ禍の中でも充実した教育活動を進めることを求めての結果だと判断できます。現在、そのような対応できるように、“GIGAスクール構想”実現のための取組が南アルプス市でも進行中です。稼働できるのは来年度以降になる予定ですが、施設設備に関しては、行政と協議する中で改善を図り、よりよい環境で児童が学習を進められるようにしていきます。



また、ご意見として、今年度は保護者や地域の方が学校を訪れる機会もほとんどなく、学校の様子を知るための情報が乏しかったことが多く挙げられています。これは、【信頼される学校】を実現していく上で解決しなければならない大きな課題です。【信頼される開かれた学校】にしていくためにも、今年度のような場合でも、“学年だより”“学校だより”等、各種便りを通じて児童の学校での様子を知らせたり、学校ホームページを利用したりして多くの情報を家庭や地域に届けられるようにして信頼を得られるように努める必要があります。

地域・家庭・学校が連携して児童への教育活動に関わることが大切であることから、この3者の連携を密にとりながら、今後も多くの活動が充実できるよう努力していく所存です。